

3月28日の夕方6時から安倍首相の記者会見がありました。テレビ中継されましたのでご覧になった方も多いと思います。その後小池東京都知事の記者会見がありすでに印象が薄れた感がありますが、新型コロナウイルス感染症に関し、主として経済対策について話がありました。その中で、このウイルス感染症の治療薬についての話も出てきましたが、例によって新聞などにはあまり取り上げられなかったものの、具体的に3つの薬の名前を挙げて、治験が行われていると説明されていました。今日はどんな薬で治験がなされているのかを書きます。

一つ目は「ファビピラビル（商品名アビガン）」です。この薬についてはすでに、このブログで取り上げて説明していますが、「富士フィルム」の子会社である「富士フィルム立山化学」が開発した抗インフルエンザ薬であり、ウイルスが細胞内で増殖する過程を阻害（より具体的には遺伝子複製酵素ポリメラーゼの阻害）する新しい作用機序によりウイルスの生体内増殖を防ぎます。すでに治験が開始されており、「症状の改善に効果が出ているとの報告もある」とコメントされていました。

二つ目は、アメリカのギリアド・サイエンス社が開発中の抗ウイルス薬「レムデシベル」についても日米共同で治験を開始するとの言明もありました。このレムデシベルは、本来「エボラ出血熱」の治療薬として開発されましたが、すでに、新型を含むコロナウイルスに対する活性が確認されています。この作用機序については、上記「アビガン」と同様、ウイルスの増殖過程の阻害と言われています。この薬は国際共同治験が日米のほか韓国、シンガポールでも実施される予定です。

三つめは、肺炎の薬「ナファモスタット（商品名フサン）」です。この薬の作用機序は上記2つの薬と異なり、ウイルスが生体内に侵入する過程（より正確には、ウイルスが細胞膜表面の受容体たんぱく質に取り付き、膜融合するためにウイルス表面のスパイクたんぱく質を切断させる過程）を阻害します。この薬についてはすでに MERS のウイルスでの検証が行われて効果が確認されています。

安倍総理は、治験薬を「4つ」と言っていました。残りの一つは名前の言及がありませんでしたが、これまでの検討状況から、喘息薬の「シクレソニド（商品名オルベスコ）」か、抗HIV薬の「ロピナビル・リトナビル（商品名カレトラ）」あたりではないかと推測されます。このうち「カレトラ」は、HIV治療薬としてすでに国内で使用されている薬です。中国での臨床結果では有効性が確認できなかったとの報告が出ていますが、まだ決定的な結果ではないとのこと。

いずれにせよ、こうした薬の知見が、急ピッチで進められようとしています。一日も早く有効性が確認されて人可され、実際の治療に使用される日が来ることを祈ります。

本項を書くにあたり以下のサイトを参考にしました。

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2020031800741&g=soc>

<https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00002/022601110/>

<https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20200324-OYTET50011/>